

巻頭言

国立大学の第3期中期目標・中期計画の初年度にあたる2016年は、がん進展制御研究所にとっても、第2期共同利用・共同研究拠点活動の初年度の年でもあり、これまでの研究拠点運営を再点検しながら、新たな取り組みにも着手しました。今期共同研究拠点の大きな方向性として、国際研究拠点としての発展を掲げており、2016年には複数の海外研究機関と様々な交流活動を行いました。4月には、ソウル国立大学微小環境研究所(韓国)の研究者7名を本研究所に招聘し、人材および研究資源の交流を含む連携協定の締結、およびジョイントシンポジウムを開催しました。また、若手を含む本研究所教員を海外派遣して、DUKE-NUS 研究所(シンガポール)、復旦大学がん研究所(中国)、台湾国家衛生院癌研究所(台湾)、韓国国立癌センター(韓国)のそれぞれの研究施設とのジョイントシンポジウムやワークショップ等を開催し、研究交流を深化させました。東アジアの知の拠点形成を目標とする金沢大学にあって、私達がん進展制御研究所も当該地域の重要ながん研究施設とのネットワークを一層強化し、国際研究拠点として発展に向けた基盤形成に繋がりたいと考えています。国内においては、女性がん研究者フォーラム(金沢)、国際シンポジウム(金沢)、北海道大学遺伝子病制御研究所とのジョイントシンポジウム(札幌)開催の他、2017年2月には初めての試みとして、2016年度の共同研究課題採択研究グループ(53件)の代表者全員が発表者として参加する、共同研究拠点シンポジウムを金沢で開催しました。以上の取り組みにより、本共同研究拠点をハブとした国内がん研究者による横の繋がりが促進され、新たな共同研究が始まることを期待しています。

一方で、研究所内の取り組みですが、2015年に設置した先進がんモデル研究センターは、国内外から招聘した2名のリサーチプロフェッサーが主宰する研究分野を含めて本格的に稼働を始め、マウスモデルによるがん本態解明を目指す基礎研究の推進、およびPDXやGDAなどのプレクリニカル動物モデルの開発と応用研究をスタートさせました。さらに、2016年から始まった卓越研究員制度により新規採用した助教も同センターに配属となり、がんモデル研究領域を代表する研究拠点へ発展させたいと考えています。また、金沢大学ではがん進展制御研究所が参加する、新研究科の設置計画を進めており、2018年度より研究所教員が専任指導教員となる大学院が発足します。それに向けた準備も現在学内の調整を進めている所です。

以上の取り組みにより、がん研究の発展に貢献する共同研究の推進と人材育成を通して国際共同研究拠点としての成長を目指していますが、それを推進する研究所の最も重要な基盤は、各所属研究員が推進する研究にあります。ここに、2016年度の研究所各研究分野および若手PIプロジェクトの活動について年報として報告致します。今後とも皆様方の変なご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

金沢大学がん進展制御研究所長 平尾 敦